

平成 25 年 5 月 8 日

福島大学と東京海洋大学との連携事業による

福島沖海洋生態系の放射能汚染調査の実施

福島大学環境放射能研究所の事業の一環として、連携大学である東京海洋大学の練習船「海鷹丸」(総トン数：1886t)が、5月14日から23日の間、海水、底泥、プランクトン、底生生物などの採集と放射能の測定を行う。途中、5月18日に小名浜港に寄港予定。

・東京海洋大学練習船による調査は、2011年7月「海鷹丸」、10月「神鷹丸(しんようまる)」(総トン数：649t)、2012年5月「海鷹丸」、10月「神鷹丸」に次いで福島第一原発の事故後5回目、海域における放射能の分布状況や、放射能の海洋生物への移行経路、汚染状況の時間変化を明らかにし、将来予測を行うことを目的とする。

・今回は、米国ウッズホール海洋研究所 Woods Hole Oceanographic Institution (WHOI)に新設された海洋および環境放射能研究所 Center for Marine and Environmental Radioactivity (CMER)の所長 Ken Buesseler 博士を代表とする研究グループ(ウッズホール海洋研究所から4名および、ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 The State University of New York at Stony Brook より2名)が乗船する。Buesseler 博士は、2011年6月にハワイ大学の研究船 Kaimikai-0-Kanaloa により、福島・茨城沖の調査をいち早く行った。

・国内からは東京海洋大学教職員、学生その他、東京大学海洋研究所、弘前大学、日本大学、放射線医学総合研究所、電力中央研究所、いであ(株)から、述べ30人が乗船する。

・なお、5月9日午後6時半から9時半(現地時間)に「フクシマと海 Fukushima and the Ocean」と題するコロキウムがウッズホール海洋研究所で開催される。

<http://www.whoi.edu/website/fukushima-symposium/morss>

Buesseler 教授の他、東京海洋大学 神田穰太教授などが講演する。ウェブ放送で生で視聴できるとのこと。

(お問い合わせ先)

東京海洋大学

海洋観測支援センター 石丸特任教授

電話：03-5463-0595